

垂水一心

編集：垂水中央中PTA広報文化部 発行：垂水中央中学校PTA

青少年海外派遣

夢の翼 in 香港

二年 川畑 茉央

私達は日頃の学校生活だけではできない経験をし、充実した楽しい時間を過ごすことができました。王肇枝中学校での交流は不安や緊張がありました。生徒や先生方があたたかく迎えて下さいました。また、約五ヶ月という期間で準備してきたプレゼンテーションは一人一人が堂々と発表し、垂水市や学校の良さをアピールできました。また、香港では黄大仙や文化博物館や歴史博物館を訪れ、香港の文化・歴史・習慣などについて学ぶことができました。英語でコミュニケーションを図ることはとても難しく、もっと英語力を向上させたいと思いました。この四日間は、垂水市を代表とする生徒としての自覚を持って、積極的に活動したくさんのことに挑戦することができたので、学び得たことを学校や地域のために返していけるように努力していきたいです。



各学年

和田 朝美

ご卒業おめでとうございます。そして進学おめでとうございます。思えば三年前、顔も名前も知らないまま中学校生活が始まり、おどおどしていた子供達が今立派に成長して義務教育が終わろうとしています。今からは自分の未来を自分で切り開かないといけない人生になっていきます。しっかりと自分を信じて自分なりの道に進んでいってほしいです。また先生方や地域の方にはお世話になりました。また子供達と道で会った時は声をかけていただけたいです。そして保護者の方々にもご協力ご支援いただき、ありがとうございました。

2年部

堀内 貴志

学校全体行事である体育大会や文化祭等では、学級・学年で一丸となって取り組み、観ている人に感動を与え、また修学旅行では三年生が垂水市を紹介するために作成したリーフレットを宿泊先に置かせてもらうという垂水市の広報役を果たしながら、福岡・長崎の史跡を巡り、楽しい思い出づくりができたのではないかと思います。

更に今年度始まった教育委員会が主催する青少年海外派遣事業では二年生十名が香港に研修に行きました。今後その経験を活かし、多くの機会海外での体験談が語られることだと思います。

さて四月からは三年生として進路を求める学年でもありますが、それぞれの生徒が目標に向かって突き進んでほしいと願っています。学年部長として多くの方々にご支援していただいたことに心から感謝申し上げます。

今年度を振り返って

前田 速美

不安と楽しみを胸に入学してから早一年。

全ての行事が初めて、共に助け合い、時には、ぶつかり合った事でしょう。

四月から二年生。中央中の「PRIDE」を胸に、今後も友と「切磋琢磨」しながら、一人一人が毎日楽しく学校生活を送れる事を心の底から願ひ、一年間、御指導頂いた先生方へ深く感謝申し上げます。

1年部

研修部

部長 濱本 聡子

今年度の研修視察は、鹿児島情報高校と鹿児島実業高校へ行ってきました。両校とも生徒の皆さんが元気に挨拶されて校風の良さを感じました。また、両校の魅力や専門的な技術の場を見学でき受身に大いに役立ちました。家庭教育学級では、ためになる話を聞いて、心の栄養を、たくさん養う事ができました。

ご参加して頂いた皆様、一年間本当に有難うございました。

環境整備部

部長 中原 ひとみ

今年度の環境整備の活動は、夏休みの資源回収と奉仕作業がありました。暑い中での作業でしたが、学校全体がきれいになりました。また、文化祭に併せて行われたバザーでは、多数の品物を提供していただきました。一年間を通して、参加、ご協力をしていただいた先生方、保護者の皆様、ありがとうございました。 ☆感謝☆

広報部

部長 上松 美代子

今年度も無事「垂水一心」を各学期に発行することができました。ベテランの三年部は一学期、行事の多い二学期はフレッシュな一年部、そして平成最後の締めくくりに二年部で担当しました。学校行事や子どもたちの感想、PTA活動の様子などを紙面わり、原稿依頼、校正し「垂水一心」が出来上がります。ご協力いただきました先生方、PTAの皆様そして一緒に活動してきた広報部の皆様、ありがとうございました。

保健体育部

部長 市渡 雄一

今年度の保健部の活動は六月市P連バレーボール大会参加、九月体育大会での見回り、十二月長距離走での誘導をはじめ学校保健委員会の参加など致しました。どの活動も大きな事がなく無事に終えることができました。しかし年間活動を通して組織の役割分担など沢山の改善点もありましたので、次年度の新部長に引継ぎの際伝えていきたいと思ひます。一年間ご協力ありがとうございました。

PTA 専門部 より

今年度の活動を振り返って



編集後記

担当2学年 広報部

お忙しい中、原稿をお引受けいただき、ありがとうございました。

卒業

おめでとう!



学校長 長崎 伸一

卒業おめでとうございます。義務教育九年間はあっという間だったと思ひます。特にこの三年間は、早く感じられたのではないのでしょうか。遅く育った我が子に感慨もひとしおかと存じます。

ところで、「卒業」を英語で検索すると「graduation」と出てきますが、実際にアメリカでは「commencement」を使うことが多いようです。この単語は「開始」という意味があり、長い修行を終えて一人前の人間として人生を始めるという深いニュアンスをもちます。「卒業」が中学校生活の終了ではなくこれからこの人生の「始まり」に焦点をあてている点がいいですね。

明るく人懐こい百十一人の三年生には、中学校時代を振り返り反省していくことも大切ですが、過去にとらわれず常に前を見据えて羽ばたいてほしいと思ひます。

三年間の成長を職員とともに見守ってくださいました保護者の皆様に深く感謝申し上げます。ご理解とご支援ありがとうございました。

永遠のわれらが母校

濱里忠宣 作詞
藤屋清信 作曲

- 一、桜舞う豊けき郷に
本城の清き流れに
あゝわれら三年の友と
永遠に結びてゆかん
- 二、つつじ咲き 耀う丘に
風わたる五月の空に
かえらざる三年の夢を
永遠にかかげてゆかん
- 三、錦江の潮の行手に
新しき歴史の道に
刻みゆく三年の学び
永遠にまもりてゆかん
- 四、火の島の熱きころは
よるこも悲しみの日も
あゝわれら生きゆく力
永遠のわれらが母校へ(く返し)



残り半分の部活動

2年1組 迫田 隼人

僕には、忘れてくても忘れられない出来事があります。それは、地区総体です。去年の六月に行われた地区総体では、僕達のチームは、一日目で負けてしまい県大会への道をたれてしまいました。先輩達も信じられない様子で、三年生最後の地区総体となってしまいました。この地区総体を半年後にひかえた今、僕はこの悔しさを忘れずに体力作りから始めました。苦しい思いをしながら、僕達二年生にとっての最初の試合、地区新人総体が行なわれました。僕達のチームは、三日目までなかなか行くことができなかったのですが、僕達の代で三日目まで行く事ができました。三位と結果も残し、練習の成長を感じる事ができました。

僕には、大切にしている言葉があります。それは、「努力すれば結果が出る、でも何もしなければ結果はついてこない。」これは、よく父が言っている言葉です。当たり前のようですが、今年受験生という立場でもあるので、この言葉を大切にしたいです。

さて、残り半年ほどで引退となってしまいますが、それぞれ各部活動で目標があると思います。僕は、二つの目標があります。一つ目は、県大会に行く事です。今の三年生やこれまで県大会の舞台に立てなかった先輩達の思いも背負って地区総体に挑みたいのです。二つ目は、二年生全員で試合に出る事です。これまでは、一年生が試合に多く出ていましたが、やはり先輩として残りの半年の間に、今の一年生にプレイを示したいです。この二つの目標が達成できるように、毎日の部活を頑張りたいです。

最後に、今年受験生という立場なので、勉強や部活をがんばり、後悔しない一年にしていきたいです。

立志のつどい

大切な目標

2年2組 小畑 光瑠瑚

私がいつも大切にしている目標は、支えてくださる方々に感謝の気持ちを忘れない事です。みなさんにとっては「ふつう」と思っている人もいるかもしれませんが、

普段、何気なくあたり前のようにしている事も、周りの人の力がなくて、自分一人では何もできません。私はいつも、周りの人に支えられて生活しています。

例えば、私が所属している吹奏楽部では、一年生の人数より二年生の人数が少なく、ほとんどは校外で演奏します。その時に私たちを手伝って楽器運びをしてくれる人や、お弁当を作ってくれたりも応援してくれる親、そして部員たち、友達、指導を熱心してくださる顧問の先生など、身の周りにはたくさんの人が支えてくれています。

ですが以前まで、こんなに多くの人々が私たちを支えている事に、気付く事ができませんでした。それは、「当たり前」と思っていたからです。私は母に、「吹奏楽部のために、日曜日だけど、わざわざ学校のかぎを開けてくださる先生や、応援してくれる人がいるなんて、恵まれているね。」と言われました。私は母に言われた時、自分たちだけで演奏は成り立っていると勘違いしていた事に気付きました。恵まれた環境の中で応援してくれる親や友達、地域の方々がいるだけでとても心強いです。

母に「恵まれた環境は当たり前の事じゃない」と気付かされた時、関わってきた人全員に感謝の気持ちがあったのかと思ひ後悔しました。

そして、三年生になつていよいよ受験生です。今までよりも関わる人は多くなっていくと思います。なので、今までの自分とこれからの自分を変えられるように、常に感謝を忘れずに過ごしていきたいです。

プロになるまでに達成しておきたい事

2年3組 永田 清瑛

僕の将来の夢は、プロ野球選手になる事です。それまでに達成しておきたい事が三つあります。

まず、一つ目は、地区総体を勝ち上がって県総体に出場する事です。一年生の夏に先輩方に連れて行ってもらいましたが、それ以降は一度も出場する事ができていないので、次の春と最後の夏の総体では、絶対に県大会に出場したいと思います。

次に二つ目は、投手で球速百三十キロを投げられるようになる事です。前に一度測った時には、百二十六キロでした。後四キロ上げる為には、まだ下半身を強く太く強化しないといけません。そして体の軸がぶれないように体幹も強化しないといけません。その為、毎日のランニングと体幹トレーニングを欠かせません。なので毎日欠かさず練習して少しずつ成長したいと思います。

三つ目は、人間力を上げる事です。先輩や後輩、指導者などに対する気づかいやグラウンドにゴミが落ちていたら拾うなどのちょっとした気づかいを積み重ねていけば自然と結果はついてくると思います。人間力が上がれば指導者やチームメイトからも信頼されると思うし、試合でも実力が同じであれば何もしていない人に比べたら、何かしている人の方が起用してもらえるのではないかと考えます。今はメジャーリーグで活躍している大谷選手も、「人間力向上」というのを、九つある目標のうち一つにかかっています。そう考えると人間力というのは、本当に大事な事なんだと思いました。自分も野球部を引退するまでに、少しでもチームメイトに信頼されるような選手になりたいです。

夢へのきっかけ

2年1組 和田 彩那

私には夢がある。その夢のきっかけとなったのは今からさかのぼること九年前の事だ。当時五歳だった私は保育園児として走り回ったり、お昼寝したり、保育園児らしい無邪気な時間を過ごしていた。

そんなある日、私に大きな出来事があった。それは引越した。その頃私は鹿屋に住んでいて、鹿屋市内にある保育園に通っていた。引越した理由は一年ほど前から作り始めた家が完成し、そこに移住するからだった。保育園児だったから悲しい、淋しいという感情はなかったけれど、引越して新しい保育園に通う事になるという実感が湧いてこなかった。そうするうちに新しい保育園で一日目がスタートした。私は人見知りです。話すことができず、話しかけてくれる友達も怖くて心が開けずいた。そんな時に私はきっかけとなる言葉を言われた。私に話しかけてきてくれたのは担任の先生だった。「彩那ちゃん、ここに居るみんなはそんなに怖い子達じゃないよ。仲良くしてね。」私はそう言われ、何気ない普通の一言かもしれないけれど、その時の私にとってはとても支えになる一言だった。私はそのおかげで緊張感がほぐれ、友達ができてこそく大事な二年を過ごす事ができた。その先生は怒るし、怖い時もあったけれど私の中で一番大好きな先生だった。

そして今、私は大人になる準備をしなければいけない年齢になった。私は今まで夢も無くどうしようかと迷っていた。そして自分の好きなものは何だ、と考えた時、私は子供が好きな事に気がついた。私はその時、憧れの大好きな先生に背中を押された気がした。もう何年か会っていないけれど、私はまた先生に助けられたのだ。先生に会ったらこう言おう。「先生、私の夢は保育士です。」と。

生き物に感謝

2年2組 是井 愛胡

「生き物に感謝」その言葉は食事の時に私がいつも感じる言葉である。生き物には、一つ一つ大切な命があるのだ。だからこそ、大切な命は簡単に無駄にはできない。

私には、将来の夢がある。それは、農業の仕事につくことだ。この夢を持つようになったきっかけは、小学生の頃、垂水高校でたくさんの職業を体験できる機会があり、私は農業の仕事を体験した。牛の体のつくりかたや鶏の習性などを学んだ。元々、動物が好きな私は農業の楽しさを知った。それから、少

しずつ農業について調べてみたり、祖母の家の畑仕事を手伝うなどしてたくさんを学んだ。

農業は、大変な仕事である。年々、農業に関わる人が減ってきているのもこの理由があるからだ。動物の体の管理や野菜の成長の様子をしっかり観察して、出来るまで一つ一つの作業を完璧にこなさないといけない。それは、決して簡単な事ではない。私たちのところに食べ物が届けるまでには、たくさんの人々の努力のおかげだと私は考えている。食事をする前の、「いただきます」は生き物の大切な命をいただくときのあいさつであり、食べ終えた後の「ごちそうさまでした」は「ありがとう」と同じ意味を持つあいさつだと思う。このような事が「生き物に感謝」という言葉につながる。

これからも、生き物の大切な命をいただく時や食べ終えたら、感謝の言葉を忘れずに食事をしていきたい。そして、農業の仕事について私が食べ物を届ける側の人になり、生き物の大切さと食事の出来るありがたさを伝えていきたい。

将来の自分に

2年3組 川畑 黎花

私は目標があります。それは、自分の夢を決める事です。私は自分の夢が決まっていますが、来年、高校入試があります。ですから、自分の夢を決め、その夢に向かい自分に合っている高校に合格したいです。

その為には、今の自分が変わる事が大切だと思います。学校生活で落ち着きのない自分を変えたいです。三年生になると全ての行事が中学校生活最後になります。ですから、仲間と楽しみ、協力し、助け合いたいです。私は、全ての行事に参加し、自分から進んで動き、みんなの役に立てるよう努力したいです。

次に、勉強です。入試で一番大切な事だと思います。勉強は、今の私に一番足りない事なので、まず、授業を真剣に受ける事です。私は、授業中に寝たり、友達との私語が多いので、それをなくしたいと思います。

そして、二つ目は、その日習った事を家に帰って復習することです。今の私は、宅習をして終わります。ですが勉強は毎日の復習が大切です。三学期からは、毎日勉強二時間目指して頑張りたいです。

三つ目は、何事も最後まで諦めない事です。私は、すぐに諦め、何事も逃げてしまうので、最後まで諦めないよう努力したいです。もし逃げてしまえばもう戻らないので、その理由を考え、自分の力でしっかりと最後まで成し遂げるように頑張りたいです。

そして、志望校に合格したら、その高校でしっかりと頑張り、仲間を大切に、仲間と高校生活を楽しみたいです。何より、自分の夢に向かって日々努力したいです。



3年1組

た入学式から三年がたとうとしています。私たちは、とても元気で、どの行事でも、一生懸命取り組む学年でした。そのため意見の食い違いがありました。最高学年として、二年生を引っ張り、すべての行事を大成功で終わることができました。この学年で三年間を過ごすことができ本当によかったと思います。また、この仲間と共に学校生活を送ることが私の一番の思い出です。これからは別々の道を進むことになり寂しいですが、中央中で学んだことを忘れず自分の夢に向かって頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

先生方、保護者のみなさん、そして三年生のみなさん、たくさん思い出をありがとうございました。三年一組 齊藤 千華 中学校生活を振り返ってみると、とてもあつという間で、最高の思い出になったと思います。少し大きな制服を身に纏い、緊張しながら迎え

三年一組

岩切 峻馬

中学生生活三年間はあつという間に過ぎてしまいました。三年間を通してたくさんの方がありましたが、やはり中学校生活最後である三年生は本当に楽しかったです。競技の部、応援の部と共に優勝することができた体育大会。指揮者賞、伴奏者賞、そしてグラブプリを獲得した合唱コンクールなどたくさんの行事で活躍をし、三年一組の団結力を見せつけることができました。自分は後期総務になり、クラスのみんなに支えてもらい最後まで総務を務めることができました。このようなすばらしい仲間と別れるのは寂しいですが、自分の夢や目標に向かって頑張ります。



3年2組

私の中学校生活は、走馬灯のように毎日が過ぎていきました。体育大会、文化祭、合唱コンクール等、私達は最高学年としてこの自覚を持って皆で一生懸命、練習に取り組み一・二年生のおこがれとなる三年生になろうと学校を引っばつてきました。各行事が無事に終了する度に、仲間の絆がより深くなつていき、クラスや学年の団結力は格段に上がったように感じます。この仲間と過ごした日々は、私にとって大切な思い出になり、何ものにもかえらぬ宝物です。これから私達は、それぞれ違う道に進みますが、この垂水中央中学校で学んだ全ての事を、今後の人生に生かしていきたいと思ひます。先生方、今までたくさんのご指導や教えをありがとうございました。「垂水中央プライド」を胸に秘め、私達は夢に向かって突き進んでいきたいと思ひます。

卒業するにあたり、中学校生活三年間を振り返ってみると、あつという間でも素晴らしいものでした。僕は、どの学年にも負けないくらい元気です。とても仲がいいと思ひます。そんな仲間達と一緒に過ごした日々は、忘れられない大切な思い出です。特に三年生での職場体験や、体育大会、文化祭、どの行事も大成功だったと感じました。これらの思い出は、全て僕にとつて、大切な宝物です。担任の先生や他の先生から注意される時もありました。それも僕にとって大切な思い出です。三年間、ともに戦ってきた仲間達と、離ればなれになるのはつらいけれど、壁にぶつかったら仲間とすこした日々を思い出し、前向きな気持ちで自分達の選んだ道を歩んでください。三年生のみんなに出会えたことが一番の思い出だと思ひています。本当に三年間ありがとうございました。

三年二組

和田 海成



3年3組

三年間様々なことを経験してきましたが、共にがんばってきた仲間と離れることはとても寂しいです。ですが、中学校で学んだことを忘れずに、これから夢や目標に向かって、突き進みたいと思ひます。三年生のみんなに出会えたことが一番の宝物です。三年間ありがとうございました。

毎日笑顔であふれていた中学校三年間はあつという間でした。とても男女仲が良く、それぞれの個性があり、チームワークが良い学年だったと思います。垂水中央中学校に入学して、私は、仲間と協力することの大切さ、また、努力することの大切さを学びました。私は後期総務になり、最初はみんなをまとめることができるのだからと不安で胸がいっぱいでした。総務になると、大変なことたくさんあり、それでもみんなと一緒に一つ一つ達成してきました。三年間とても楽しかったです。

三年三組

有馬 康平

中学校生活は内容の濃いものでしたが、とても短く感じた三年間だったなと思ひました。緊張しながらもドキドキする自分の心をおさえて校門をくぐつた入学式。その入学式がつい最近のように感じます。一年、二年は先輩方の力を借りながら色々な行事を行ってきました。しかし、三年生になったときは、自分たちで盛り上げて色々な行事をやり遂げることができました。このようなことができたのはクラスの団結力があつたからなのではないかと思ひます。高校では色々なことが新しくなるので挑戦していきたいです。三年間とても楽しかったです。

三年三組

山下 暖花